

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	大久保線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	狸坂	山崎		
系統キロ程 (km)	17.7	輸送量 (人/日)	26.4		
平均乗車密度 (人/便)	4.2	運行回数 (回/日)	6.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松学院大学、浜松北高校、開誠館高校、浜松市立高校、浜松商業高校、静岡大学附属小・中学校、富塚小・中学校、神久呂中学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	51.0		乗車人員 (人)	77,100	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停 1 3	名称	拠点：JR浜松駅ターミナル バス停：田町中央通り、尾張町、市役所南、鹿谷町、浜松北高、富塚、富塚西、狸坂、神ヶ谷西平、大久保東、つるが丘入口、雄踏図書館、山崎		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	9.9				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法等を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 				
費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルタグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルタグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【浜松市】</p> <p>浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけしており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。</p> <p>秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> 転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 学校MM：事業者主催のバス教室の開催 高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	大久保線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	狸坂	田端住宅		
系統キロ程 (km)	12.9	輸送量 (人/日)	25.0		
平均乗車密度 (人/便)	4.1	運行回数 (回/日)	6.1		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松学院大学、浜松北高校、開誠館高校、浜松市立高校、浜松商業高校、静岡大学附属小・中学校、富塚小・中学校、神久呂中学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	58.6		乗車人員 (人)	77,552	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停10	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル バス停：田町中央通り、尾張町、市役所南、鹿谷町、浜松北高、富塚、富塚西、狸坂、神ヶ谷西平、大久保東		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	1.8				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 				
費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 点呼にてエドドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【浜松市】</p> <p>浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけられており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。</p> <p>秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> 転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 学校MM：事業者主催のバス教室の開催 高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	伊佐見線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	伊佐見橋	山崎		
系統キロ程 (km)	16.6	輸送量 (人/日)	49.7		
平均乗車密度 (人/便)	4.4	運行回数 (回/日)	11.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松北高校、開誠館高校、浜松市立高校、海の星高校、広沢小学校、伊佐見小学校			
	病院	浜松病院、医療センター、湖東病院			
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	56.8		乗車人員 (人)	173,636	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停12	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル バス停：田町中央通り、尾張町、市役所南、鹿谷町、医療センター、佐鳴台5丁目、富塚西、狸坂、神田原、伊佐見橋、古入見東、山崎		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	1.0				
増収策	●事業者としての取組 【計画】 ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。				
費用削減策	●事業者としての取組 【計画】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 点呼にてエドドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。				
沿線市町のサポート	【浜松市】 浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。 秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7. 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8. その他の取り組み ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布				
利用実態					

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	浜名線		事業者名	遠州鉄道株式会社	
路線の状況	起点	經由地	終点		
	浜松駅	舞阪協働センター	湖西市役所		
系統キロ程 (km)	22.5		輸送量 (人/日)	51.0	
平均乗車密度 (人/便)	5.1		運行回数 (回/日)	10.0	
公共・拠点施設	学校	可美中学校、篠原小学校			
	病院	湖西病院			
	商業施設				
	その他	スズキ、湖西市役所、舞阪協働センター、JR浜松、高塚駅、舞阪駅、弁天島駅、新居町駅、鷺津駅			
収支率 (%) (収益/費用)	55.6		乗車人員 (人)	183,019	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点4 バス停5	名称	拠点：JR浜松駅(スターミナル、新居町駅、鷺津駅、弁天島温泉駅) バス停：成子坂、新居栄町、清源坂、本興寺前、湖西市民会館		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	12.7				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 				
	費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 			
沿線市町のサポート		<p>【浜松市】</p> <p>浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけられており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。</p> <p>秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8. その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 <p>【湖西市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスに関する説明会を開催した際に、運行内容(経路・時刻)を説明し、沿線住民へ利用を呼びかけた。 ・バスの日イベントを実施した際にJR鷺津駅で通勤・通学者に時刻を記載したチラシを配布し、利用を呼びかけた。 ・市コミュニティバスや自主運行バスとの乗り継ぎに配慮した。 ・バス事業者と意見交換を実施した。 			
	利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 150 輸送量(人/日) 10 30 平均乗車密度(人/便) 20 300,000 乗車人員(人) 100 取支率(%)</p>			

系統名	笠井高台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	笠井上町	山東		
系統キロ程 (km)	23.5	輸送量 (人/日)	19.0		
平均乗車密度 (人/便)	5.3	運行回数 (回/日)	3.6		
公共・拠点施設	学校	西遠学園、天竜高校、清滝中学校、与進小学校			
	病院				
	商業施設	浜松プラザ			
	その他	浜松市天竜区役所、JR浜松駅、遠鉄西鹿島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	61.5		乗車人員 (人)	67,205	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点2 バス停14	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、遠鉄西鹿島駅 バス停：広小路、子安、宮竹、原島、市野上、恒武、笠井本町、笠井上町、東河原上、南中瀬、鹿島橋、秋野不矩美術館入口、二俣横町、山東		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	8.2				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【浜松市】</p> <p>浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。</p> <p>秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8. その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所)20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

系統名	浜北医大三方原聖隷線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	三方原聖隷	染地台 なゆた浜北	浜北区役所		
系統キロ程 (km)	18.9	輸送量 (人/日)	39.0		
平均乗車密度 (人/便)	5.0	運行回数 (回/日)	7.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	聖隷クリストファー高校・大学、西部特別支援学校、浜松工業高校、日体高校、医科大学			
	病院	聖隷三方原病院			
	商業施設				
	その他	浜松市浜北区役所、遠鉄浜北駅、小松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	56.5		乗車人員 (人)	97,523	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停13	名称	拠点：遠鉄小松駅、なゆた浜北 バス停：聖隷三方原病院、根洗、都田口西、都田口、曳馬野、浜工高前、三方原営業所、半田、環状線入口、染地台3丁目、内野台1丁目、内野台3丁目、浜北区役所		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	48.1				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法等を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【浜松市】</p> <p>浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。</p> <p>秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8. その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

系統名	渋川線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	追分	渋川儀光		
系統キロ程 (km)	36.3	輸送量 (人/日)	51.9		
平均乗車密度 (人/便)	5.8	運行回数 (回/日)	8.8		
公共・拠点施設	学校	静岡大学、浜松北高校、浜松市立高校、開誠館高校、北星中学校			
	病院	聖隷浜松病院			
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、天竜浜名湖鉄道金指駅			
収支率 (%) (収益/費用)	55.5		乗車人員 (人)	182,745	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点2 バス停18	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、天竜浜名湖鉄道金指駅 バス停：田町中央通り、ゆりの木通り、元城町、市役所南、鹿谷町、浜松北高、六間坂上、住吉町、和合町、葵町、追分、北星中学入口、新豊院、根洗、祝田、引佐高校前、井伊谷、渋川		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	30.1				
増収策	●事業者としての取組 【計画】 ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法等を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。				
費用削減策	●事業者としての取組 【計画】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。				
沿線市町のサポート	【浜松市】 浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけしており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。 秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7. 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8. その他の取り組み ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	渋川線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	追分	伊平		
系統キロ程 (km)	21.8	輸送量 (人/日)	17.0		
平均乗車密度 (人/便)	5.0	運行回数 (回/日)	3.4		
公共・拠点施設	学校	静岡大学、浜松北高校、浜松市立高校、開誠館高校、北星中学校			
	病院	聖隷浜松病院			
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、天竜浜名湖鉄道金指駅			
収支率 (%) (収益/費用)	60.8		乗車人員 (人)	48,766	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点2 バス停17	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、天竜浜名湖鉄道金指駅 バス停：田町中央通り、ゆりの木通り、元城町、市役所南、鹿谷町、浜松北高、六間坂上、住吉町、和合町、葵町、追分、北星中学入口、新豊院、根洗、祝田、引佐高校前、井伊谷		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	28.6				
増収策	●事業者としての取組				
	【計画】 ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法等を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。				
費用削減策	●事業者としての取組				
	【計画】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。				
沿線市町のサポート	【浜松市】 浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけしており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。 秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7. 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8. その他の取り組み ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布				
利用実態					

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	城之崎線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	磐田駅	東新町	浅羽中学		
系統キロ程 (km)	11.0	輸送量 (人/日)	21.3		
平均乗車密度 (人/便)	3.5	運行回数 (回/日)	6.1		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浅羽中学校、浅羽北小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	袋井市浅羽支所、NTT磐田製作所、JR磐田駅			
収支率 (%) (収益/費用)	52.9		乗車人員 (人)	55,089	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停5	名称	拠点：JR磐田駅 バス停：城之崎、西貝塚北、東貝塚、東新町、新出		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	17.3				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法等を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 				
費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【磐田市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス路線維持費補助金の交付基準を拡充した。 ・路線バスの待合・乗継環境向上のため、施設整備に係る補助制度を新設した。 <p>【袋井市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主運行バスと乗り換えができるように、当地域間幹線系統に接続するバス停（幹線停留所名：浅羽中学、自主運行停留所名：浅羽中学校前）を設置している。 ・ホームページ当路線の時刻表などを掲載し利用促進を図っている。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田市立病院福田線			事業者名	遠州鉄道株式会社	
路線の状況	起点	経由地	終点			
	磐田市立病院	磐田駅	豊浜郵便局			
系統キロ程 (km)	19.6	輸送量 (人/日)	55.8			
平均乗車密度 (人/便)	4.2	運行回数 (回/日)	13.3			
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	磐田南高校、磐田北小学校				
	病院	新都市病院、磐田市立病院				
	商業施設					
	その他	磐田市役所、磐田市福田支所、JR磐田駅				
収支率 (%) (収益/費用)	55.5		乗車人員 (人)	174,573		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停 1 1	名称	拠点：JR磐田駅 バス停：磐田市立病院、大久保東原、二階家、井戸ヶ谷、磐田北小、西坂町、加茂川、新道、前嶋、福田交番前、福田営業所			
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	30.1					
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法等を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 					
費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 					
沿線市町のサポート	<p>【磐田市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス路線維持費補助金の交付基準を拡充した。 ・路線バスの待合・乗継環境向上のため、施設整備に係る補助制度を新設した。 					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>					

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	中ノ町磐田線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	中ノ町	磐田営業所		
系統キロ程 (km)	17.4	輸送量 (人/日)	117.4		
平均乗車密度 (人/便)	5.7	運行回数 (回/日)	20.6		
公共・拠点施設	学校	西遠学園、磐田西高校、磐田南高校、中ノ町小学校、磐田西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	磐田市役所、JR浜松、磐田駅			
収支率 (%) (収益/費用)	68.7		乗車人員 (人)	364,587	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点2 バス停8	名称	拠点：JR浜松駅(ターミナル)、磐田駅 バス停：広小路、子安、磐田石原、加茂川、国道加茂川、見付、富士見町、磐田営業所		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	17.1				
増収策	●事業者としての取組				
	【計画】 ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。				
費用削減策	●事業者としての取組				
	【計画】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。				
沿線市町のサポート	【浜松市】 浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけられており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。 秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7. 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8. その他の取り組み ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 【磐田市】 ・バス路線維持費補助金の交付基準を拡充した。 ・路線バスの待合・乗継環境向上のため、施設整備に係る補助制度を新設した。				
利用実態					

系統名	北遠本線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	西鹿島駅	横山車庫	水窪町		
系統キロ程 (km)	51.9	輸送量 (人/日)	18.0		
平均乗車密度 (人/便)	3.6	運行回数 (回/日)	5.0		
公共・拠点施設	学校	天竜高校、清滝中学校、光が丘中学校、横山小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市天竜区役所、龍山協働センター、水窪協働センター、遠鉄西鹿島駅、JR飯田線相月駅、水窪駅			
収支率 (%) (収益/費用)	28.4		乗車人員 (人)	59,774	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点2 バス停4	名称	拠点：遠鉄西鹿島駅 バス停：鹿島橋、秋野不矩美術館入口、二俣横町、山東		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	38.4				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法等を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 				
費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【浜松市】</p> <p>浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけられており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。</p> <p>秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> 転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 学校MM：事業者主催のバス教室の開催 高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

系統名	秋葉線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	春野車庫		西鹿島駅		
系統キロ程 (km)	23.4	輸送量 (人/日)	21.5		
平均乗車密度 (人/便)	4.3	運行回数 (回/日)	5.0		
公共・拠点施設	学校	天竜高校、天竜高校春野校舎、清滝中学校、光が丘中学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市天竜区役所、遠鉄西鹿島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	50.2		乗車人員 (人)	60,288	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点1 バス停6	名称	拠点：遠鉄西鹿島駅 バス停：横川、下すがり入口、山東、二俣横町、秋野不矩美術館入口、鹿島橋		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	32.8				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法等を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【浜松市】</p> <p>浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。</p> <p>秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7. 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8. その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

系統名	秋葉線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	春野車庫	西鹿島駅	厚生会		
系統キロ程 (km)	26.7	輸送量 (人/日)	21.5		
平均乗車密度 (人/便)	4.3	運行回数 (回/日)	5.0		
公共・拠点施設	学校	天竜高校、天竜高校春野校舎、清滝中学校、光が丘中学校			
	病院	天竜病院、厚生会			
	商業施設				
	その他	浜松市天竜区役所、遠鉄西鹿島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	48.7		乗車人員 (人)	84,882	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点1 バス停7	名称	拠点：遠鉄西鹿島駅 バス停：横川、下すがり入口、山東、二俣横町、秋野不矩美術館入口、鹿島橋入口、天竜病院坂下		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	16.8				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法等を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【浜松市】</p> <p>浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。</p> <p>秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8. その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田天竜線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	山東	新開	磐田駅		
系統キロ程 (km)	21.7	輸送量 (人/日)	59.7		
平均乗車密度 (人/便)	4.9	運行回数 (回/日)	12.2		
公共・拠点施設	学校	天竜高校、磐田南高校、磐田西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	県中遠総合庁舎、磐田市役所、浜松市天竜区役所、JR磐田駅、遠鉄西鹿島駅、天竜浜名湖鉄道豊岡、二俣駅			
収支率 (%) (収益/費用)	59.2		乗車人員 (人)	163,253	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点2 バス停10	名称	拠点：JR磐田駅、天竜浜名湖鉄道二俣駅 バス停：山東、二俣横町、秋野不矩美術館入口、寺谷上、火ノ見、句坂中村、三ツ入下、宝新道、西坂町、加茂川		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	66.4				
増収策	●事業者としての取組 【計画】 ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。				
	費用削減策	●事業者としての取組 【計画】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。			
沿線市町のサポート		【浜松市】 浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけしており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。 秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7. 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8. その他の取り組み ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 【磐田市】 ・バス路線維持費補助金の交付基準を拡充した。 ・路線バスの待合・乗継環境向上のため、施設整備に係る補助制度を新設した。			
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

系統名	磐田天竜線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	山東	ららぽーと	磐田駅		
系統キロ程 (km)	24.7	輸送量 (人/日)	60.2		
平均乗車密度 (人/便)	4.4	運行回数 (回/日)	13.7		
公共・拠点施設	学校	天竜高校、磐田南高校、磐田西小学校			
	病院				
	商業施設	ららぽーと磐田			
	その他	県中遠総合庁舎、磐田市役所、浜松市天竜区役所、JR磐田駅、遠鉄西鹿島駅、天竜浜名湖鉄道豊岡、二俣駅			
収支率 (%) (収益/費用)	53.3		乗車人員 (人)	203,480	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点2 バス停10	名称	拠点：JR磐田駅、天竜浜名湖鉄道二俣駅 バス停：山東、二俣横町、秋野不矩美術館入口、寺谷上、火ノ見、句坂中村、三ツ入下、宝新道、西坂町、加茂川		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	32.5				
増収策	●事業者としての取組 【計画】 ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。				
	費用削減策	●事業者としての取組 【計画】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。			
沿線市町のサポート		【浜松市】 浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけしており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。 秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7. 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8. その他の取り組み ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 【磐田市】 ・バス路線維持費補助金の交付基準を拡充した。 ・路線バスの待合・乗継環境向上のため、施設整備に係る補助制度を新設した。			
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 150 輸送量(人/日) 10 平均乗車密度(人/便) 100 30 運行回数(回/日) 20 100 アクセス拠点(箇所) 300,000 100 乗車人員(人) 収支率(%)</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	掛塚さなる台線			事業者名	遠州鉄道株式会社	
路線の状況	起点	経由地	終点			
	浜松駅	掛塚 駒場	横須賀 車庫			
系統キロ程（km）		26.3	輸送量（人/日）	42.5		
平均乗車密度（人/便）		5.0	運行回数（回/日）	8.5		
公共・拠点 アクセス 状況	学校	浜松修学舎、横須賀高校、竜洋西小学校				
	病院					
	商業施設					
	その他	磐田市福田支所、掛川市大須賀支所、JR浜松駅				
収支率（%） （収益/費用）	55.6		乗車人員（人）	120,795		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停10	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル バス停：東部協働センター、名塚西、芳川西、芳川、金洗西、鮫島西、新道、前嶋、福田営業所、福田交番前			
広域利用状況（%） （他市町へ跨ぐ利用者の割合）		54.8				
増収策	●事業者としての取組					
	<p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法等を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 					
費用削減策	●事業者としての取組					
	<p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃費削減に努めた。 点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費削減キャンペーンも実施した。 営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 					
沿線市町の サポート	【浜松市】					
	<p>浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけられており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。</p> <p>秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 新たな利用者を振り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> 転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会で啓発 企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 学校MM：事業者主催のバス教室の開催 高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 <p>【磐田市】</p> <ul style="list-style-type: none"> バス路線維持費補助金の交付基準を拡充した。 路線バスの待合・乗継環境向上のため、施設整備に係る補助制度を新設した。 <p>【掛川市】</p> <ul style="list-style-type: none"> 月1回のノーカーデーでのバス等公共交通利用呼びかけ。 市ホームページから時刻表等バス情報へのリンク。 <p>【袋井市】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運行地区（浅羽南地区）の会合時にPRを行い利用促進を行っている。 ホームページ当路線の時刻表などを掲載し利用促進を図っている。 					
利用 実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>					

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	掛塚さなる台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	掛塚	豊浜郵便局		
系統キロ程 (km)	17.3	輸送量 (人/日)	22.0		
平均乗車密度 (人/便)	4.0	運行回数 (回/日)	5.5		
公共・拠点施設	学校	浜松修学舎、竜洋西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	磐田市福田支所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	52.5		乗車人員 (人)	61,441	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停9	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル バス停：東部協働センター、名塚西、芳川西、芳川、金洗西、飯島西、新道、前嶋、福田営業所		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	30.9				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 				
	費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 			
沿線市町のサポート		<p>【浜松市】</p> <p>浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけしており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。</p> <p>秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8 その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 <p>【磐田市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス路線維持費補助金の交付基準を拡充した。 ・路線バスの待合・乗継環境向上のため、施設整備に係る補助制度を新設した。 			
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

系統名	掛塚さなる台線		事業者名	遠州鉄道株式会社	
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	掛塚 とつか	豊田町駅		
系統キロ程 (km)	14.6		輸送量 (人/日)	40.1	
平均乗車密度 (人/便)	4.1		運行回数 (回/日)	9.8	
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松修学舎、竜洋西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	JR浜松、豊田町駅			
収支率 (%) (収益/費用)	55.6		乗車人員 (人)	107,814	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停6	名称	拠点：JR浜松駅/バスターミナル、豊田町駅 バス停：東部協働センター、名塚西、芳川西、芳川、金洗西、金洗東		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	41.7				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 				
	費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 			
沿線市町のサポート		<p>【浜松市】</p> <p>浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけしており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。</p> <p>秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8 その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 <p>【磐田市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス路線維持費補助金の交付基準を拡充した。 ・路線バスの待合・乗継環境向上のため、施設整備に係る補助制度を新設した。 			
	利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>			

系統名	掛塚さなる台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	掛塚千手堂	磐田駅		
系統キロ程 (km)	14.8		輸送量 (人/日)	39.0	
平均乗車密度 (人/便)	4.2		運行回数 (回/日)	9.3	
公共・拠点施設	学校	浜松修学舎、竜洋西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	JR浜松駅、磐田駅			
収支率 (%) (収益/費用)	57.3		乗車人員 (人)	104,544	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点2 バス停10	名称	拠点：JR浜松駅(バスターミナル)、磐田駅 バス停：東部協働センター、名塚西、芳川西、芳川、金洗西、小島中村、神明、万正寺、天竜、磐田石原		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	30.4				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 				
	費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 			
沿線市町のサポート		<p>【浜松市】</p> <p>浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけしており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。</p> <p>秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7. 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8. その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 <p>【磐田市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス路線維持費補助金の交付基準を拡充した。 ・路線バスの待合・乗継環境向上のため、施設整備に係る補助制度を新設した。 			
	利用実態	<p>系統キロ程(km) 14.8</p> <p>輸送量(人/日) 39.0</p> <p>平均乗車密度(人/便) 4.2</p> <p>運行回数(回/日) 9.3</p> <p>アクセス拠点(箇所) 10</p> <p>乗車人員(人) 104,544</p> <p>収支率(%) 57.3</p> <p>広域利用状況(%) 30.4</p>			

系統名	内野台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅		内野台車庫		
系統キロ程 (km)	12.6	輸送量 (人/日)	84.7		
平均乗車密度 (人/便)	5.5	運行回数 (回/日)	15.4		
公共・拠点施設状況	学校	浜松北小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、遠鉄上島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	74.0		乗車人員 (人)	158,477	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点2 バス停8	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、遠鉄上島駅 バス停：田町中央通り、尾張町、上島西、半田、環状線入口、内野台1丁目、内野台3丁目、内野台車庫		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	39.8				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法等を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【浜松市】</p> <p>浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけられており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。</p> <p>秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8. その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 12.6</p> <p>輸送量(人/日) 84.7</p> <p>平均乗車密度(人/便) 5.5</p> <p>運行回数(回/日) 15.4</p> <p>アクセス拠点(箇所) 2</p> <p>乗車人員(人) 158,477</p> <p>収支率(%) 74.0</p> <p>広域利用状況(%) 39.8</p>				

系統名	内野台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	内野台車庫	サンストリート浜北		
系統キロ程 (km)	13.8	輸送量 (人/日)	44.5		
平均乗車密度 (人/便)	4.2	運行回数 (回/日)	10.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松北小学校			
	病院				
	商業施設	サンストリート浜北			
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、遠鉄上島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	55.8		乗車人員 (人)	89,901	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停10	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、遠鉄上島駅 バス停：田町中央通り、尾張町、上島西、半田、環状線入口、内野台1丁目、内野台3丁目、内野台車庫、妙蓮寺前、グリーンアリーナ入口		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	33.7				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法等を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者としての取組 【計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【浜松市】</p> <p>浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。</p> <p>秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8. その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田市立病院福田線		事業者名	遠州鉄道株式会社	
路線の状況	起点	経由地	終点		
	磐田駅南口		豊浜郵便局		
系統キロ程 (km)	9.4		輸送量 (人/日)	30.9	
平均乗車密度 (人/便)	3.4		運行回数 (回/日)	9.1	
公共・拠点施設 アクセス状況	学校				
	病院	新都市病院			
	商業施設				
	その他	磐田市福田支所、JR磐田駅			
収支率 (%) (収益/費用)	54.3		乗車人員 (人)	57,012	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停5	名称	拠点：JR磐田駅南口 バス停：静岡産業大学入口、新道、前嶋、福田交番前、福田営業所		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	71.9				
増収策	●事業者としての取組				
	【計画】 ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法等を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。				
費用削減策	●事業者としての取組				
	【計画】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。				
沿線市町のサポート	【磐田市】 ・バス路線維持費補助金の交付基準を拡充した。 ・路線バスの待合・乗継環境向上のため、施設整備に係る補助制度を新設した。				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

系統名	引佐線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	浜松湖北高校	気賀駅前		
系統キロ程 (km)	18.6	輸送量 (人/日)	36.5		
平均乗車密度 (人/便)	5.8	運行回数 (回/日)	6.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	静岡大学、浜松北高校、浜松市立高校、開誠館高校、引佐高校、気賀高校			
	病院	聖隷浜松病院			
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、天浜線金指駅、天浜線気賀駅			
収支率 (%) (収益/費用)	72.0		乗車人員 (人)	92,989	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点3 バス停19	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル、天浜線金指駅、天浜線気賀駅 バス停：田町中央通り、ゆりの木通り、元城町、市役所南、鹿谷町、浜松北高、六間板上、住吉町、和合町、葵町、追分、北星中学入口、新豊院、根洗、祝田、引佐高校前、清水橋、気賀四ツ角、片町		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	30.2				
増収策	●事業者としての取組 【計画】 ・運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法等を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 ・小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 ・えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 ・トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 【実績】 ・4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。				
費用削減策	●事業者としての取組 【計画】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 【実績】 ・デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。				
沿線市町のサポート	【浜松市】 浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけしており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。 秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。 1 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 2 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 3 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 4 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 7. 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） 8. その他の取り組み ・転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 ・地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 ・企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 ・職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の庁内広報誌の発行 ・学校MM：事業者主催のバス教室の開催 ・高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布				
利用実態					

系統名	萩丘都田線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅		染地台 三丁目		
系統キロ程 (km)	12.3	輸送量 (人/日)	30.0		
平均乗車密度 (人/便)	6.0	運行回数 (回/日)	5.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松学芸高校、浜松学院高校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	84.4		乗車人員 (人)	70,684	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停9	名称	拠点：JR浜松駅バスターミナル バス停：かじ町、元城町、市役所前、浜松城公園入口、常楽寺、上島西、萩丘、長池、三方原営業所		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	6.9				
増収策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運賃箱データを活用し、遅れ・利用人員・利用区間・支払方法等を曜日別や時間帯別に把握し、合理的なダイヤを作成する。 小学生向けバス教室を実施し、バスの乗り方やエコに関する説明を行う。 えんてつカード（クレジットカード）からナイスバス（ICカード）へのオートチャージ（自動積増）の利用促進。 トップタッチ（ICカード販促機器）によるバス利用の促進を図る。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 遠鉄ストアでのICカード、定期券の出張販売及び路線バスPR。 				
費用削減策	<p>●事業者としての取組</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図る。 営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を行うことにより、間接部門人件費の抑制を図る。 60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図る。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルタコグラフを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導により燃料費節減に努めた。 点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費節減キャンペーンも実施した。 営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【浜松市】</p> <p>浜松市総合交通計画において基幹的な公共交通として位置づけされており、交通事業者が主体的に運行する中で、利用促進等の取り組みを行い、地域・交通事業者・行政が一体となって路線の維持確保に努める。</p> <p>秋葉バス（秋葉線）、遠州鉄道（北遠本線・秋葉線）は天竜区の骨格をなす路線であり、他に代替の交通手段がないことから、路線の存続が必要であり、国庫補助金で不足する経費を市が補助することで維持していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 運行継続のため事業者に対して補助金を交付（27市予算額：118,246千円） 新たな利用者を掘り起こすためのC&R駐輪場整備に対して補助金を交付（H27市予算額：2,034千円） 利用促進のための啓発イベントに対して補助金を交付（H27市予算額：300千円） 高齢者等にバス券等を交付（高齢者70歳以上4,000円/年）（H27市予算額：396,078千円※事業総額） 浜松市地域公共交通会議での協議（平成28年1月18日 第27回浜松市地域公共交通会議） その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> 転入者MM：転入者に対して路線図、啓発パンフ等を配布 地域MM：地域交通検討会、老人クラブ等の会合で啓発 企業MM：エコ通勤、C&R等の取り組みの協力 職員MM：エコ通勤の日設定、毎月の市内広報誌の発行 学校MM：事業者主催のバス教室の開催 高校生MM：市内の新高校生全員にむけて、利用促進パンフを配布 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

